



2026 年 9 月 10 日発行

社会福祉法人 龍鳳ライフパートナーこぶし
〒203-0004 東久留米市氷川台 2-31-19
TEL:042-470-2385 FAX:042-470-2386
清瀬事業所/ふわっとん
〒204-0013 清瀬市上清戸 1-15-18
TEL&FAX:042-497-9481
<https://www.fukushiryuhoh.or.jp/kobushi/>

夕涼み会でのスイカ割り♪
見事にスイカが割れました！



総務事務部 部長
大神田 千恵

備える

お盆を過ぎたあたりから過ごしやすいい日が増えてきましたが、まだまだ残暑厳しい日や、急な大雨など、例年になく不安定な気候が続いた今年の夏でした。

この3か月ほどの間で、全国で40度を超える酷暑日が続き、熊本・山梨・岩手・茨城で震度5以上の地震が発生し、各地で線状降水帯や台風による豪雨など、甚大な被害をもたらす自然災害が多数発生しました。被災された皆様には心よりお見舞い申し上げます。ともに、一日でも早く安心して日常が過ごせる日が来ることを心よりお祈り申し上げます。

福祉新聞によると、特に今回の熊本の地震では、1700件以上の福祉施設が被害を受け、現在も復旧作業が続いているとのことでした。これだけ各地で自然災害が相次ぐと、いつ身近で災害が発生してもおかしくはない、明日は私たちの地域での出来事かもしれないと受け止めなければならぬと痛感します。

ライフパートナーこぶしは開所から25年以上が経過し、あちこちがたつきがみられる年数となっていますが、建物の定期的な点検・メンテナンスはもちろんのこと、館内の設備に関しても計画的に、利用者の皆さんの生活に不便や不都合が出ないよう更新・刷新しています。

24時間365日止まることなく運営する入所施設として、毎日サービスを提供し続ける場所であるために、事業継続計画（BCP）を策定し災害発生に備えています。これはあ

くまでも災害発生から物理的に最低限事業を継続し続けることを前提としているため、被害が長期化した場合については更なる計画を策定し、また、こうした直近での実際の被災状況の情報を得て、常にブラッシュアップしていく必要があります。

特に障害のある方は、環境の急激な変化に強い不安を感じたり、避難そのものが大きな負担となる方も少なくありません。今回の熊本地震でも、被災した障害者施設の利用者の方々への心身の影響の懸念についていくつかの報道を目にしました。そのためには物理的な対策だけでなく、精神面・心理面で寄り添い「避難後も安心して生活ができる」ためのプランも考えていかなければなりません。

災害が「まだ」起きていない、今この時点ではないと、備えや準備はできません。実際に発生してからでは当然遅すぎるため、あらゆる情報を「まだ」の時点で集め、現時点で必要とされる備えを定期的に見直しながら準備していくこと、そして普段から地域や行政、近隣施設との横の連携を深め、必要な情報を相互に共有していくことが、地域の中にある福祉施設としての役割なのではないでしょうか。

今年9月は関東大震災が発生した月でもあります。昔からいわゆる「防災月間」と呼ばれています。多数発生した今夏の自然災害から学び、これから起きるかもしれない身近な場所での災害に備えるため、こぶしではもちろんのこと、自分自身や家族の身の回りの防災を改めて見直す機会にしたいと思います。



例年8月上旬に清瀬市社会福祉協議会主体で実施している子どもの食サポート事業の1つ“きよちゃん子ども弁当”に参加しました！

クッキーの生地・ポテトサラダ・厚焼き玉子、味噌マヨソース作り、レタスの水切り、買い出し、当日の配達まで利用者さん全員の力をお借りして合計330食提供することができました！



生活支援員 鈴木 理斗

朝、出勤時に挨拶をすると「おはようございます！」と元気に返事をしてくれる H さん。朝の元気なあいさつで 1 日の元気を貰っています。気持ちの良い挨拶から良い 1 日をスタートすることができます！



夏休みに風鈴作り！涼しい音色が聞こえてきそうです♪（増田 沙織）

支援記録はお宝

こぶしでは記録を大切にしています。タイトルの言葉通り「お宝」だと私は日々実感しています。支援記録は、その名の通り、実際に支援を行なった内容を記録します。また、直接支援だけでなく、聞き取りや観察などから得た情報も記録します。他にも、その支援に対して、自分自身の考えがあった場合は、補足として記録しています。

記録がなくても支援は行うことができますが、毎日同じ人が支援に入ることができない私たちにとって、記録がないと利用者さんの健康面、作業や外出での様子、日々の変化など把握することができません。把握することができないと、利用者さんにとって最適な支援が提供できない可能性もあります。だからこそ、記録を大切にし、「お宝」なのです。

今年度、男性フロアとして「記録の向上」を目標として取り組んでいます。今後も記録を大切にしていこうと、利用者さんの今、そして将来がより豊かなものになるよう努めていきたいと思ひます。

生活支援員 城間 直哉

フォトニュース ～8月の様子～

♪夕涼み会♪



日帰り旅行はサンシャインシティへ行きました♪



♪こぶし祭り♪ ボランティア募集のお知らせ



11/7(土)にライフパートナーこぶしにて《こぶし祭り》が開催されます！！
現在、こぶし祭りに参加されるボランティアさんを大募集中です！！
利用者さんとお祭りを楽しんだり、販売のお手伝いをしたり、
模擬店のお手伝いをしたりして楽しい時間を過ごしてみませんか？

「福祉の仕事に興味がある！」 「障害のある方と関わってみたい！」
「誰かの楽しい時間を作るお手伝いをしてみたい！」



そんな方は、ぜひお気軽にご参加ください！
ボランティア参加のご連絡、お待ちしております！！

ボランティア
募集中

ボランティア担当：近藤 連絡先☎：kobushi@fukushiryuhoh.or.jp

未来の目的に向かって

夏の甲子園大会は熱戦の末、幕を閉じましたが優勝したチームは昨年の雪辱を晴らし、絶え間ない努力を続け目標が達成されました。選手たちの素晴らしいプレーやスポーツマンシップに感動し、応援し終わった観客も周りを掃除して、次の人が安心して応援出来るように気遣う姿など日本の良い文化が表れていました。

さて、こぶしでは今年度の障がい者サービスや支援をより良いものにするため、これまでの取り組みを振り返っています。できたことだけでなく、できなかったことにも目を向け、なぜうまくいかなかったのかを考え、改善方法を探ることが重要です。簡単にできることだけを続けていては、職員の支援の質を高めることはできません。

メジャーリーガーの大谷選手のような優れた野球選手であっても、投げられた球を毎回打てるわけではありません。さまざまな球に対応するため、練習やICTを活用した身体づくりを重ね、失敗から学びながら力を伸ばしています。支援も同じで、うまくいく方法だけを繰り返すのではなく、難しい場面にも対応できる力を身につける必要があります。

そのため、こぶしでは毎月の会議や研修を通じて、支援に必要な知識や技術を学び、利用者さんの状態や希望に応じたさまざまなプログラムを提案しています。職員同士で意見を出し合い、一人ひとりの生活や思いを尊重する視点を確かめることも欠かせません。施設内だけでなく、新しい人や場所、関係機関との交流も経験を広げる大切な機会です。さらに、OJTを通して、実際の仕事の中で先輩から学び、できなかったことにも適切な方法を見つけられる土台を築いています。

「今できているから大丈夫」と思い込むのではなく、どのような状況にも柔軟に対応できる経験と力を育てることが、障がい者サービスの目的を実現する道です。支援する側が学び続け、変化を恐れずに工夫することで、利用者さんが安心して新しい一步を踏み出せる環境も生まれます。今年度の振り返りと改善を、利用者さん一人ひとりのより良い未来、そして地域の中でその人らしく暮らせる明日へ繋げていきます。

主任相談支援専門員 佐藤 幸雄



ピンチはチャンス

利用者さんと関わっていると、楽しい・嬉しいと感じることはもちろんありますが、難しいと感じることも多くあります。どうしたらいいんだ～！と頭を抱えてしまい、うまく支援できない自分に落ち込んでマイナス思考になってしまいがちです。

でも、“ピンチはチャンス”という言葉があるように、悩んだり落ち込んだりしている時こそ自分が成長するチャンスなのかもしれないと最近少しずつ思えるようになりました。今までは仕事のやりがい＝仕事をしていて楽しい・嬉しいと思えることという認識が強かったのですが、“ピンチはチャンス”の発想でいけば、仕事をする中で難しいと思うことでも、それを自分次第でやりがいに変えていけると思いました。私はまだまだ未熟者なので、これからも様々な壁にぶつかり沢山悩み挫折してしまいそうになることもあるかと思いますが、そういう時こそ前向きに、全ての出来事が自分を成長させてくれるスパイスになると信じて頑張っていきたいです。

生活支援員 高橋 美友